

# === T A C S 情報 第3号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和6年6月11日  
農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過

### (1) 気温

5月の平均気温は、17.9℃（対平年差+0.4℃）と平年並であった。  
6月上旬の平均気温は、20.0℃（同-0.3℃）と平年に比べ低かった。

### (2) 降水量

5月の降水量は、228.5mm（対平年比186%）と平年に比べ多かった。  
6月上旬の降水量は、25.0mm（同118%）と平年並であった。

### (3) 全天日射量

5月の平均全天日射量は、18.0MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比98%）と平年並であった。  
6月上旬の平均全天日射量は、20.5MJ/m<sup>2</sup>/日（同105%）と多かった。

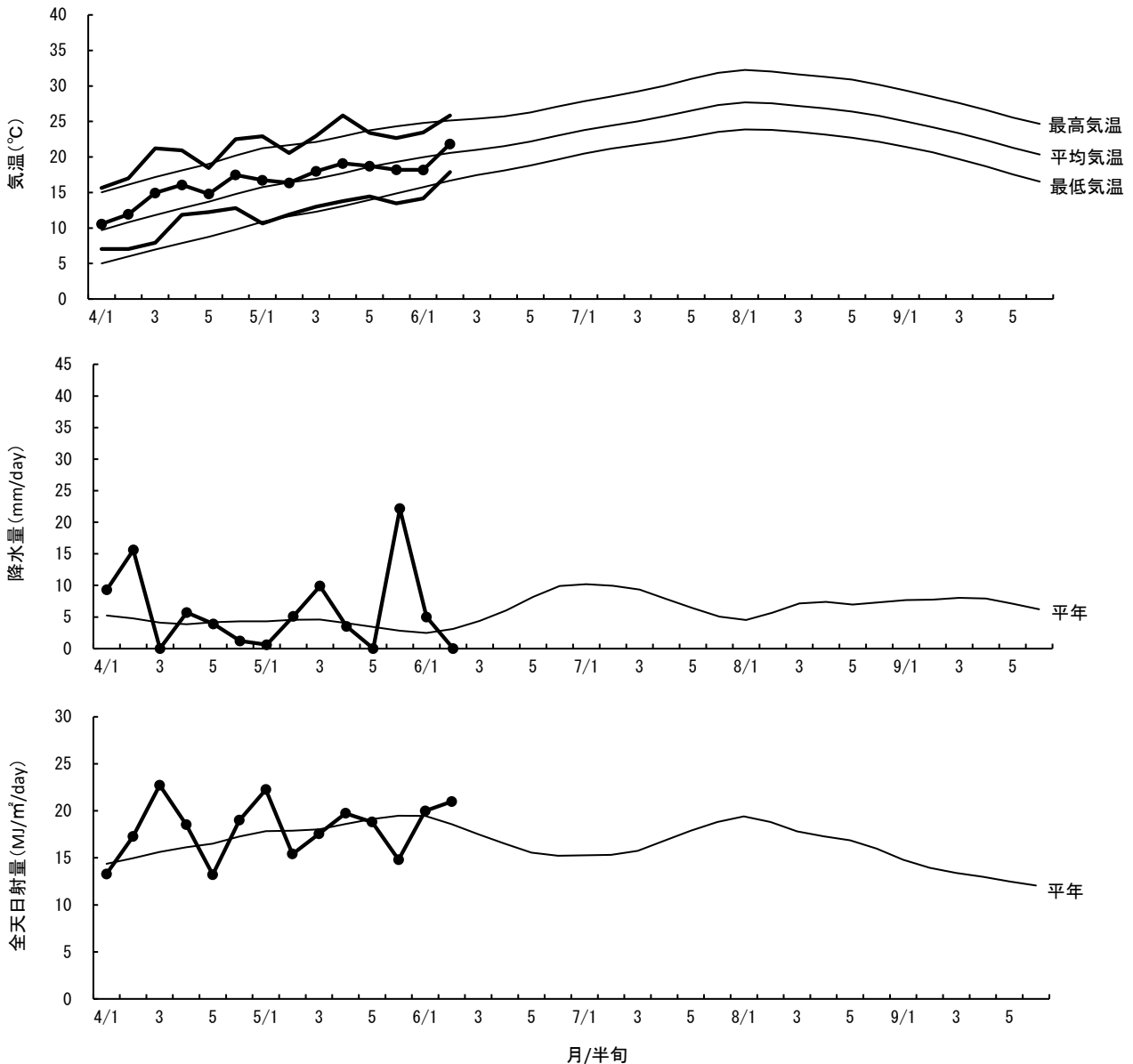


図1 令和6年の気象経過（富山地方気象台）

## 2 生育状況（生育観測ほデータ）

### (1) コシヒカリ

平年に比べ、草丈は短く、茎数はかなり少なく、葉色は並、葉齢は0.4葉遅れている。  
葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや短く、茎数は少なく、葉色は並となっている。

表1 「コシヒカリ」の生育状況（6月11日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD
R6	5月14日	28.9	12.3	264	7.4	4.2	38.3
R5	5月13日	31.5	15.9	346	7.8	4.3	39.1
平年	5月14日	32.3	15.8	343	7.8	4.3	39.4
前年比・差	1	92	78	76	-0.4	-0.1	-0.8
平年比・差	0	90	78	77	-0.4	-0.1	-1.1

注) 平年 : H26~R5の平均

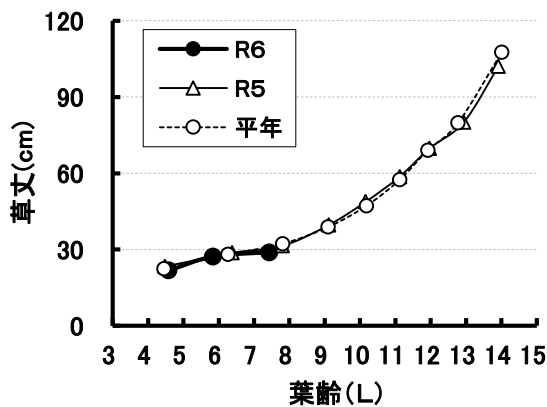


図2 草丈の推移（生観コシヒカリ）

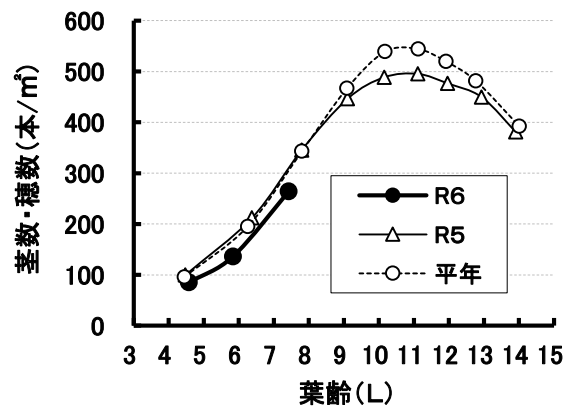


図3 茎数の推移（生観コシヒカリ）

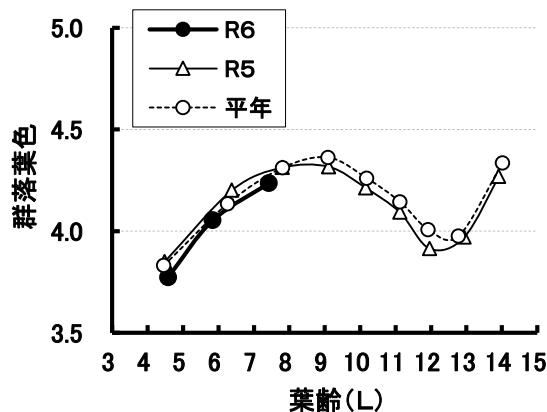


図4 葉色の推移（生観コシヒカリ）

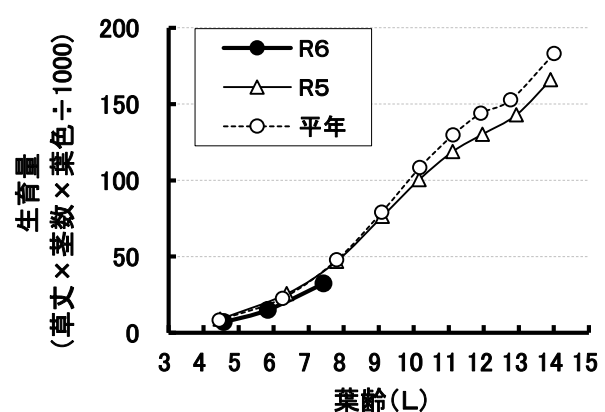


図5 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(2) てんたかく

平年に比べ、草丈は短く、茎数はやや少なく、葉色、葉齢は並となっている。

表2 「てんたかく」の生育状況(6月11日 生育観測ほ)

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD
R6	5月2日	31.8	22.0	469	9.4	4.5	43.6
R5	5月3日	33.8	22.8	485	9.1	4.5	41.2
平年	5月4日	35.4	23.3	501	9.3	4.6	42.0
前年比・差	-1	94	96	97	0.3	0.0	2.4
平年比・差	-2	90	94	94	0.1	-0.1	1.6

注1) 平年 : H26~R5の平均

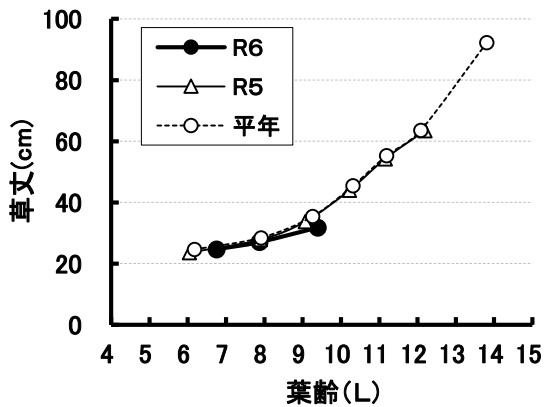


図6 草丈の推移(生観てんたかく)

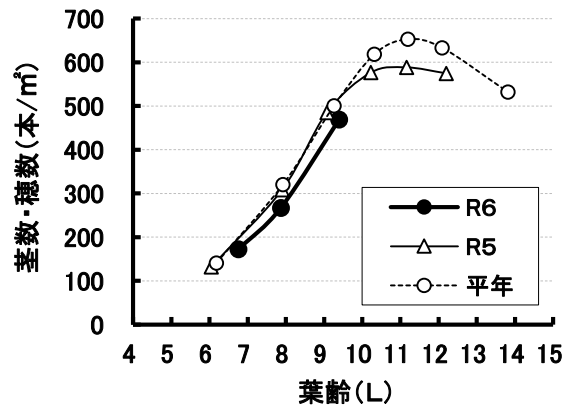


図7 茎数の推移(生観てんたかく)

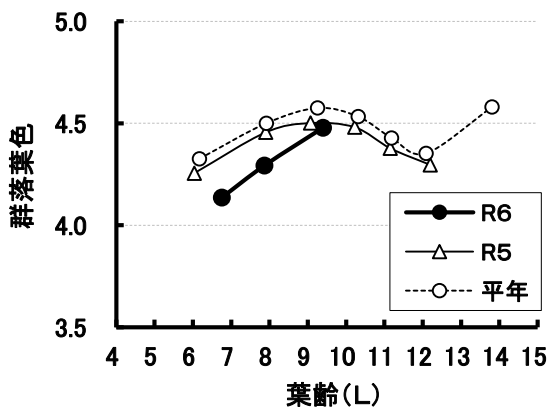


図8 葉色の推移(生観てんたかく)

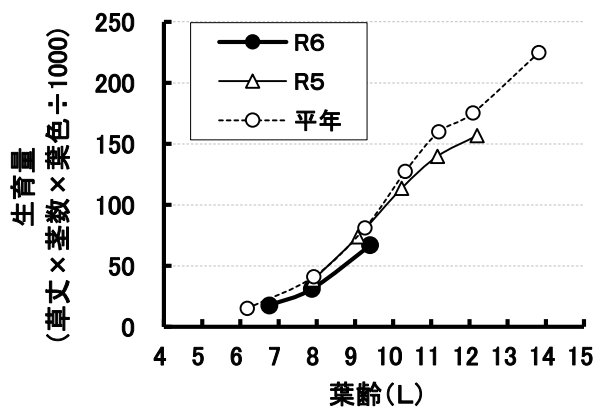


図9 生育量の推移(生観てんたかく)

### (3) てんこもり

平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数は少なく、葉齢は0.2葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数は少なくなっている。

表3 「てんこもり」の生育状況（6月11日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD
R6	5月8日	27.2	19.2	361	8.7	4.4	38.6
R5	5月10日	27.3	21.3	412	8.5	4.4	39.9
平年	5月8日	28.6	23.3	442	8.9	4.5	41.1
前年比・差	-2	100	90	88	0.2	0.0	-1.3
平年比・差	0	95	83	82	-0.2	-0.1	-2.5

注) 平年 : H26~R5の平均

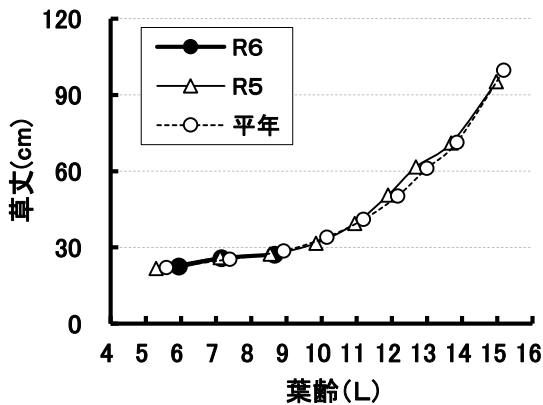


図10 草丈の推移（生観てんこもり）

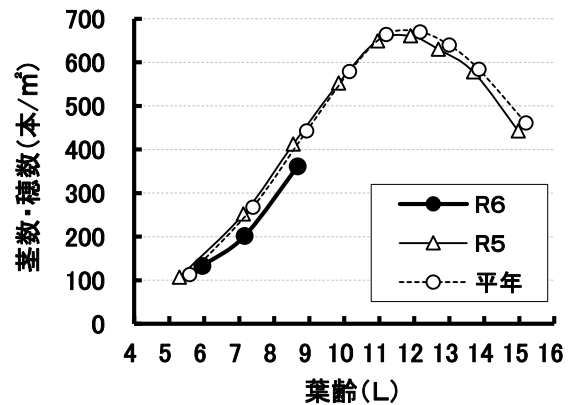


図11 茎数の推移（生観てんこもり）

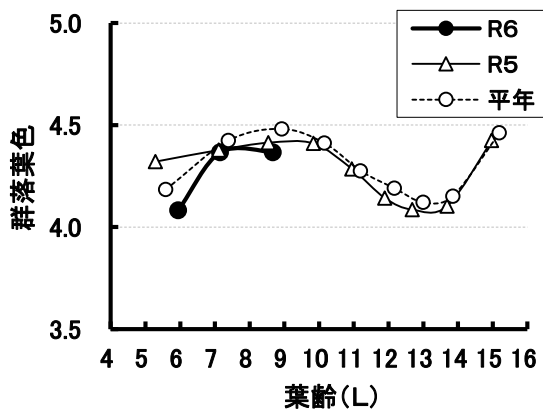


図12 葉色の推移（生観てんこもり）

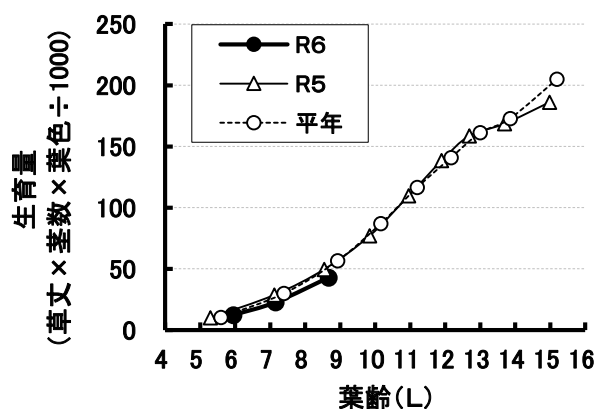


図13 生育量の推移（生観てんこもり）

### 3 当面の技術対策

- ・「コシヒカリ」では、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・中干し後は間断かん水を実施し、地耐力を確保する。

#### (1) 「コシヒカリ」の管理

- ・中干し前に溝掘りを実施し、田植後4週間までに遅れずに中干しを開始する。
- ・中干しの強さの目安として、一度に強く干し上げるのではなく、「田面に小さな亀裂が入る程度」の中干しを数回繰り返す、地耐力を高める。
- ・中干し後の間断かん水では、葉色の急激な低下を防ぐため、田面を乾かしすぎないように管理し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ3cm程度」に誘導する。
- ・作付前にケイ酸質資材や加里資材を散布していないほ場では、積極的にこれらの資材を散布し、稈質を強くする。

#### (2) 「てんたかく」の管理

- ・中干し後の間断かん水では、葉色の急激な低下を防ぐため、田面を乾かしすぎないように管理し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ3cm程度」に誘導する。

#### (3) 「てんこもり」の管理

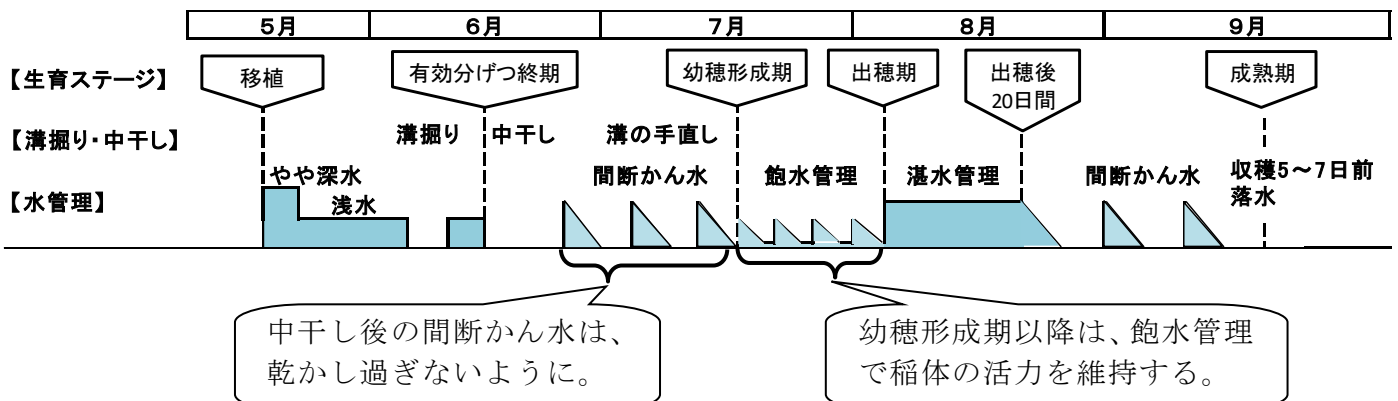
- ・まだ中干しを実施していないほ場は、早急に中干しを開始する。
- ・中干し後の間断かん水では、葉色の急激な低下を防ぐため、田面を乾かしすぎないように管理し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ3cm程度」に誘導する。



中干しの終了時に、ほ場中央部でくるぶしまで軽く沈む程度を目安とする。

写真 中干し終了時点のほ場の状態

#### <水管理のイメージ>



#### (4) 病虫害防除の徹底

##### ア 斑点米カメムシ類

- ・暖冬や春先からの好天により、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類の確認地点率は75.0%（平年54.8%）と高く、すくい取り虫数も7.6頭（平年3.2頭）と過去10年で最も多くなっている（農研5月20日調査）。
- ・今後、気温の上昇に伴い発生量が多くなると見込まれるので、イネ科雑草の穂が出ないう草刈りを徹底する。
- ・本田内のノビエやホタルイも、斑点米カメムシ類による被害を助長するので、除草に努める。

草刈り運動期間：6月28日（金）～7月7日（日）

一斉草刈り日：6月29日（土）～6月30日（日）

##### イ ニカメイチュウ ※平年の越冬世代成虫の発蛾最盛期：5月28日（R5：5月15日）

- ・要防除水準（防除時6月中下旬のさや枯最盛期被害茎率：3%）に基づき防除要否を判定し、適期に薬剤を散布する。
- ・前年に被害が多く見られた地域では、幼虫の発生がだらつくため、箱施薬剤を施用した場合でも必要に応じて適期に本田防除を行う。

##### ウ いもち病 ※平年の初発確認日：7月10日（R5：7月5日）

- ・苗箱施薬を施用していない場合は、予防粒剤を6月20日頃までに散布する。
- ・現在、感染好適日は出現していないが、BLASTAM 情報（農業研究所）を参考に、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

BLASTAM 情報（葉いもち予測システム）はこちらから →  
（農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載）



##### エ 紋枯病 ※平年の初発確認日：6月25日（R5：7月5日）

- ・前年発生がみられたほ場で箱施薬剤を施用していない場合は、出穂3～4週間前（粒剤）または穂ばらみ期（粉剤、液剤等）の防除を確実に行う。
- ・本田防除は要防除水準に基づき防除要否を判定し（表4）、適期に薬剤が株元に付着するように散布する。

表4 紋枯病の薬剤散布適期と要防除水準

品 種	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)	要防除水準 (発病株率)
てんたかく	出穂14日前頃	5%
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%
てんこもり	出穂7日前頃	(15%) *

※「てんこもり」要防除水準（発病株率）は暫定値

# 「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

## 1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈はやや短く、茎数はかなり少なく、葉色は並、葉齢は 0.6 葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数、葉色は近年並となっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月11日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD
R6	5月17日	26.9	11.6	254	6.9	4.3	40.3
R5	5月16日	28.2	15.0	323	7.1	4.3	38.6
近年	5月15日	28.7	14.9	320	7.5	4.4	40.2
前年比・差	1	95	77	79	-0.2	-0.1	1.7
近年比・差	2	94	78	79	-0.6	-0.1	0.1

注1) R6：11ほ場平均（生育観測ほ：4ほ場、新品種実用化・プラ削減 対照区：7ほ場）

注2) 近年値：H29～R5の平均

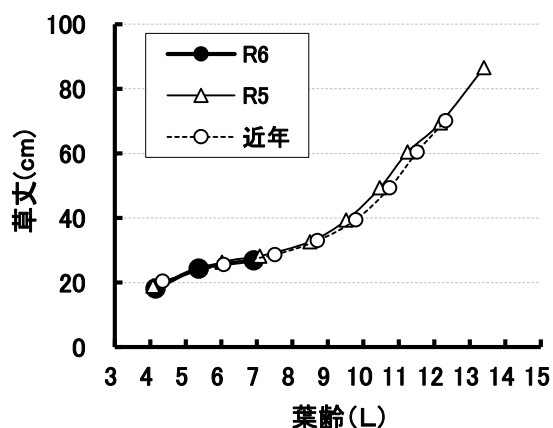


図1 草丈の推移（富富富生育観測ほ等）

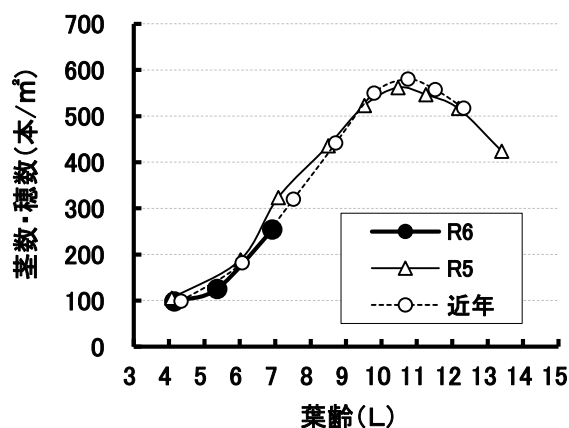


図2 茎数の推移（富富富生育観測ほ等）

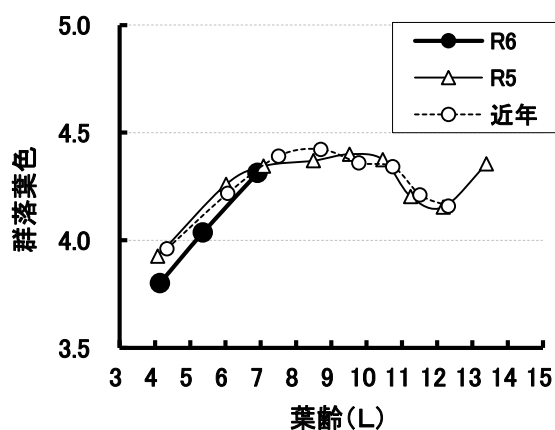


図3 葉色の推移（富富富生育観測ほ等）

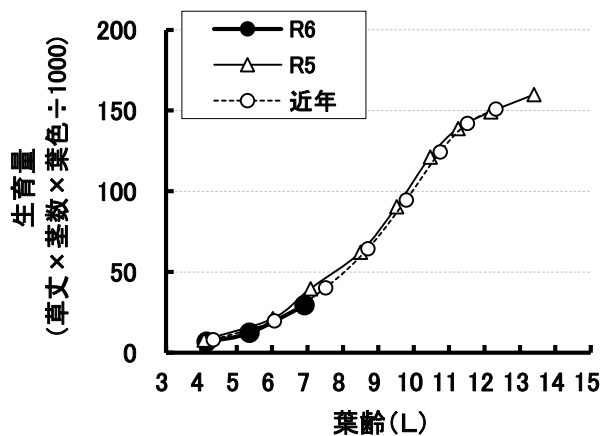


図4 生育量の推移（富富富生育観測ほ等）

## 2 当面の技術対策

- ・ 田植え後 4 週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・ 中干し後は間断かん水を実施し、地耐力を確保する。

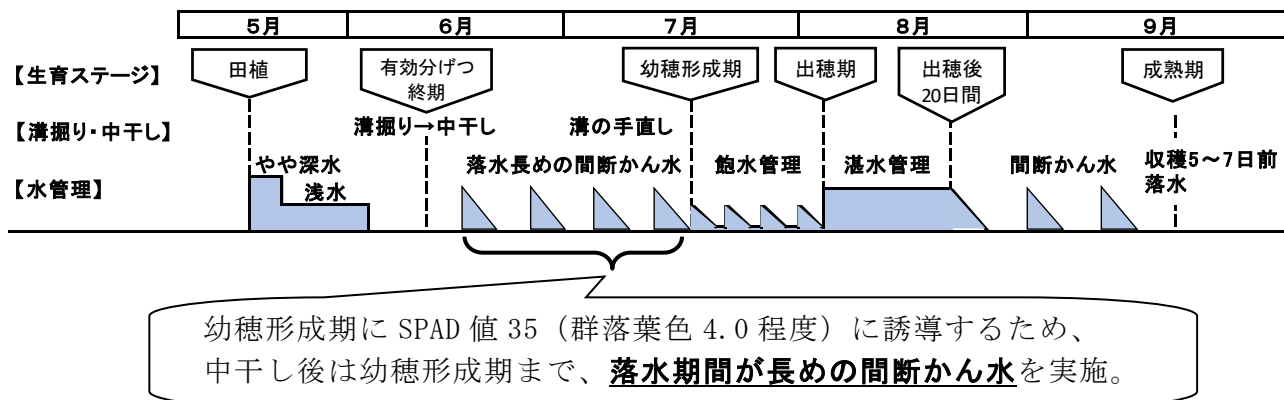
### (1) 溝掘り・中干しの徹底

- ・ 中干し前に溝掘りを実施し、田植え後 4 週間までに遅れずに中干しを開始する。
- ・ 中干しの強さの目安として、一度に強く干し上げるのではなく、「田面に小さな亀裂が入る程度」の中干しを数回繰り返す、地耐力を高める。

### (2) 中干し後の水管理

- ・ 「富富富」は葉色がやや濃いめに推移することから、適正籾数に誘導するため、中干し後、幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値を 35（群落葉色 4.0）程度に誘導する。

#### <水管理のイメージ>



### (3) その他の管理

病虫害及び雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるよう留意する。